

論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

①・乙	氏名	田原 奈生
学位論文名	Hippocampal Sclerosis in Senile Dementia of the Neurofibrillary Tangle Type	
学位論文審査委員	主査	藤谷 昌司
	副査	新野 大介
	副査	林 健太郎



論文審査の結果の要旨

神経原線維変化型老年期認知症 (SD-NFT, Senile Dementia of the Neurofibrillary Tangle type) は、海馬領域に神経原線維変化 (NFT, neurofibrillary tangle) が高度に認められる一方で、老人班をほとんど欠く認知症である。臨床像はアルツハイマー病と酷似しており、確定診断には病理学的検討が必須である。

海馬硬化 (HS, hippocampal sclerosis) は、海馬CA1領域における神経細胞脱落およびアストログリアーシスを特徴とする病理学的変化である。HSと認知症との関連は主としてアルツハイマー病で検討されてきたが、SD-NFTに関する検討は乏しい。本研究では、SD-NFTにおけるHSの病理学的特徴を検討した。

愛知医科大学加齢医科学研究所において、1994年～2022年に施行された連続剖検例のうち、病理学的にSD-NFTと確定診断された症例を対象と、合併病理の認められた症例は除外した。対象は9例で、このうち3例 (33.3%) にHSを認めた。HS群では、海馬CA1におけるghost tangle、およびNFT + ghost tangle密度は、それぞれ $261.0 \pm 104.2 / \text{mm}^2$, $290.7 \pm 103.0 / \text{mm}^2$ であり、いずれも非HS群より多かった (順に $p = 0.024$, 0.048)。

本研究により、SD-NFTの中にHSを呈する一群が存在すること、およびHSの病態形成にNFTが関連している可能性が示唆された。HSは最も頻度の高い認知症であるアルツハイマー病の病因にも関与していると考えられているが、本研究はHSがSD-NFTにおいても起こり得ることを示した点で大変意義深い研究である。本研究は認知症の病態解明に資する重要な神経病理学的研究であり、博士 (医学) の学位授与に値すると判断した。

最終試験又は学力の確認の結果の要旨

申請者は、愛知医科大学加齢医科学研究所で行われた剖検検体の中から、SD-NFTと病理診断された30例の内、SD-NFTと確定診断した9例を対象とした研究を行った。海馬硬化を病理学的に診断し、3例に認めた。NFTに加え、神経細胞の残骸と考えられるGhost Tangleの密度が、海馬硬化と病理学的に診断した群で、より多いことを明らかとした。周辺関連知識も豊富であり、学位授与に値すると判断した。

(主査：藤谷 昌司)

申請者はアルツハイマー病と鑑別が難しい、まれな疾患であるSD-NFTについて病理学的な検討を行い、SD-NFTの病態を解明した。認知症疾患の病態解明における大変重要な報告であり、質問に対しても適切に回答でき、周辺関連知識も豊富であり、学位授与に値すると判断した。

(副査：新野 大介)

申請者は神経原線維変化型老年期認知症の剖検例9例から海馬硬化を合併した例ではghost tangleの割合が多いことを明らかにした。他大学での研究で症例数も少なく、病理学的所見の解釈が困難な研究であるが、島根大学における今後の活躍も期待され、学位授与に値する。

(副査：林 健太郎)

(備考) 要旨は、それぞれ400字程度とする。